莎草研究 No. 26: 11−21 (2024).
J. Jpn. Cyperol. (26): 11−21 (2024).

【追悼】

小山鐵夫先生が『牧野日本植物圖鑑』の増補版に提供した植物図

池田 博[1,*]・田中純子[2]・角谷裕通[3]
([1]東京大学総合研究博物館 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1;
[2]練馬区立 牧野記念庭園 〒178-0063 東京都練馬区東大泉 6-34-4;
[3]株式会社 北隆館 〒153-0051 東京都目黒区上目黒 3-17-8)

Hiroshi IKEDA[1,*], Junko TANAKA[2] and Hiroyuki KADOYA[3]: Dr. Tetsuo Koyama's botanical illustrations provided to the enlarged edition of "Makino's Illustrated Flora of Japan"

([1]The University Museum, The University of Tokyo, Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, JAPAN; [2]Makino Memorial Garden, Higashi-Oizumi 6-34-4, Nerima-ku, Tokyo 178-0063, JAPAN; [3]Hokuryukan Co. Ltd., Kami-meguro 3-17-8, Meguro-ku, Tokyo 153-0051, JAPAN)
*Corresponding author: h_ikeda@um.u-tokyo.ac.jp

Abstract:
Dr. Tetsuo Koyama (1933−2024) provided five botanical illustrations to the "*Makino's Illustrated Flora of Japan (Enlarged Edition)*" (1955). They are: Fig. 3291 *Cucurbita maxima* Duchesne (Cucurbitaceae), Fig. 3728 *Caladium bicolor* Vent. (Araceae), Fig. 3736 *Areca catechu* L. (Arecaceae), Fig. 3835 *Digitaria chinensis* Hornem. (=*D. radicosa* (Presl) Miq.: Poaceae), and Fig. 3839 *Setaria autumnalis* Ohwi (=*S. faberi* Hornem.: Poaceae). Although Koyama did not provide any illustration of Cyperaceae to the "*Enlarged Edition*", Tetsuya Kawasaki (1929−2002) contributed for many illustrations of Cyperaceae instead.

小山鐵夫先生（1933−2024）は、カヤツリグサ科やサルトリイバラ科などに関する優れた分類学者であるとともに、卓越した植物図の描き手でもあった。著者のひとり池田はバラ科キジムシロ属 *Potentilla* の分類を専門としているが、大井次三郎著『日本植物誌』(1953) の英訳版として出版された "Flora of Japan (in English)" 中のミヤマキンバイ *Potentilla matsumurae* Th.Wolf の図を見て感銘を受けた（Ohwi 1965, 1984: p. 526）。小山先生が描かれたミヤマキンバイの図は、「牧野式植物図」と称される、牧野富太郎の詳細な図にも引けを取らないもので、中央に全体を大きく描き、周囲に部分図を所狭しと配置したその図は見るものを圧倒する。"Flora of Japan (in English)" には、小山先生が描いた図が少なくとも6枚あり、カヤツリグサ科に関しては、コウボウムギ *Carex kobomugi* Ohwi とエゾノコウボウムギ *C. macrocephala* Willd. を1枚の図版に描いたものがある（同: p. 226, 図1）。これも「牧野式」に倣い、中央に花茎を4本並べ、余白に断面を見せた花茎、葉の一部、鱗片や果胞、痩果などを密に配置し、雄花と雌花の花式図も示したものである。

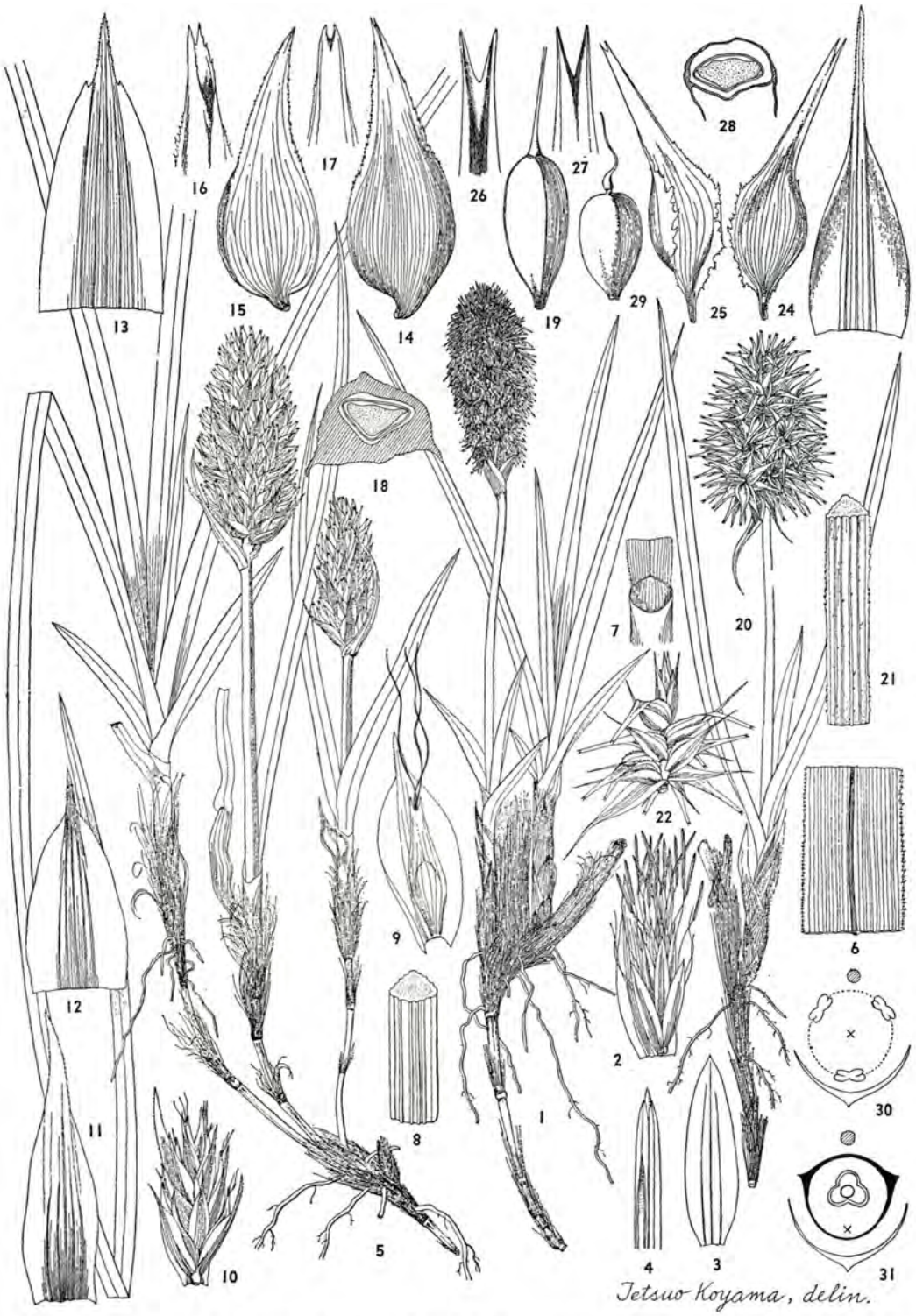

FIG. 1.—*Carex kobomugi* Ohwi (1–19). 1, Male plant at anthesis; 2, staminate spikelet with a bract at base; 3, staminate scale; 4, upper part of anther; 5, pistillate plant in fruiting stage; 6, part of leaf; 7, upper part of sheath; 8, part of a culm; 9, staminate flower and scale; 10, pistillate spikelet; 11, bract of lower spikelet; 12, bract of upper spikelet; 13, pistillate scale; 14, 15, utricles; 16, 17, beak of utricles; 18, cross section of utricle; 19, achene. *Carex macrocephala* Willd (20–29), pistillate plant; 21, part of culm; 22, pistillate spikelet with a bract at base; 23, pistillate scale; 24, 25, utricles; 26, 27, beak of utricle; 28, cross section of utricle; 29, achene; 30, diagram of staminate flower; 31, diagram of pistillate flower.

図 1. "Flora of Japan (in English)" 中の小山鐵夫先生作画にかかるコウボウムギおよびエゾノコウボウムギ（Ohwi 1965, 1984: p. 226）.

牧野富太郎著『牧野日本植物圖鑑』は、日本を代表する植物図鑑であり、改訂・増補を繰り返しながら現在でも出版が続けられている（池田・田中 2023）。その中で、牧野自身が改訂・増補をおこなったと考えられる文語体（旧字旧仮名）で書かれた記載を含む『牧野日本植物圖鑑』は、初版（1940）から 43 版（1960）まで出版されている。牧野がおこなった改訂・増補のうち、最も大きなものは、1955 年に刊行された『増補版 牧野日本植物圖鑑』である（以下『増補版』、牧野 1955b）。『増補版』は、初版（1940）から第 23 版（1955a）までに追加された 29 図、および新たに追加された 665 図を合わせ、総図版数 3900 図、総ページ数 1304 ページに達する大冊となった。『増補版』は 1955 年 12 月 15 日に発行されたが、追加した種の記載や図版に修正を要すものが多かったようで、4 ページにおよぶ訂正表と、若干の差し替え用の図版が提供されている。それらの修正は翌年 3 月 20 日発行の第 25 版（1956a）に反映され、以降、43 版（1960）まで刊行が続けられている。また、23 版以前の版を所有する読者に配慮してか、増補分のみを別冊とした『牧野日本植物圖鑑 増補』も出版されている（牧野 1956b）。

『増補版』に収載された図を描いた画家については、その序に水島南平、山田壽雄、川崎哲也、山岸新緑の名前は挙げられているが、小山先生の名前はない。しかし、小山先生は『牧野富太郎 写真集』（高知県立牧野植物園 1999）の「ごあいさつにかえて ー牧野富太郎先生との出会いー」で、「牧野先生は、日当たりのよい縁側で、いつも温顔をほころばせながら、私が持参した植物標本を見て下さった。私の植物画もお気に入られたようで、「牧野日本植物図鑑」改訂増補に当り、セイヨウカボチャ、ビンロウ、コメヒシバ等の線画を描いてくれとおっしゃり、当時浦和高校の学生であった私は天にも昇る心地で一生懸命その図を描いたものであった。」と、『増補版』に植物図を提供したことを述懐している。ただ、そこでは「・・・等」と書かれており、正確な枚数やどの図が小山先生が描かれたものかの情報が不足していた。そこで池田は 2021 年 2 月に小山先生に連絡を取り確認したところ、以下の 5 種が小山先生によって描かれたものであることが判明した：第 3291 図「くりかぼちゃ」、第 3728 図「はにしき」、第 3736 図「びんろうじゅ」、第 3835 図「こめひしば」、および第 3839 図「あきのえのころぐさ」である。これらの図のうち、「はにしき」と「あきのえのころぐさ」については、これまで小山先生が作画したことは知られていなかったのではないかと思われる。

株式会社 北隆館は『牧野日本植物圖鑑』の出版元であり、図鑑に使用された原図を多く所有する（牧野図鑑創刊 80 周年出版編集委員会 2020）。調べたところ、これら 5 種の原図はすべて北隆館に保管されていた。図は薄手のケント紙に描かれ、用紙の内側には長方形の枠が設けられ、枠の内側に植物が白黒の線により描写されている。枠の外側には図の修正や印刷時の注意事項などが書き込まれている（図 2–6）。

1. 第 3291 図　くりかぼちゃ　*Cucurbita maxima* Duchesne（図 2）

外寸 151 × 107 mm、内寸 95 × 65 mm

南米原産のウリ科植物。セイヨウカボチャとも言われる。カボチャ *C. moschata* Duchesne と同様に果実を煮物や天ぷらにして食べる。図は花をつけた茎と葉、それに熟した果実が描かれている。花の部分に書き直した図が貼り付けられ、果柄の周囲がホワイトで修正してある。図の下には「クリカボチャ Cucurbita」、左上には「くりかぼちゃ」と小山先生によると思われる鉛筆書きがなされている。「3291 図」、「2445」という数字は、

それぞれ『増補版』(1955)、『牧野新日本植物圖鑑』(1961)における図版番号である。「左右 1 寸 2 分」は刷り上がりのサイズ、「5,45/10」は印刷時の縮小率と考えられる。

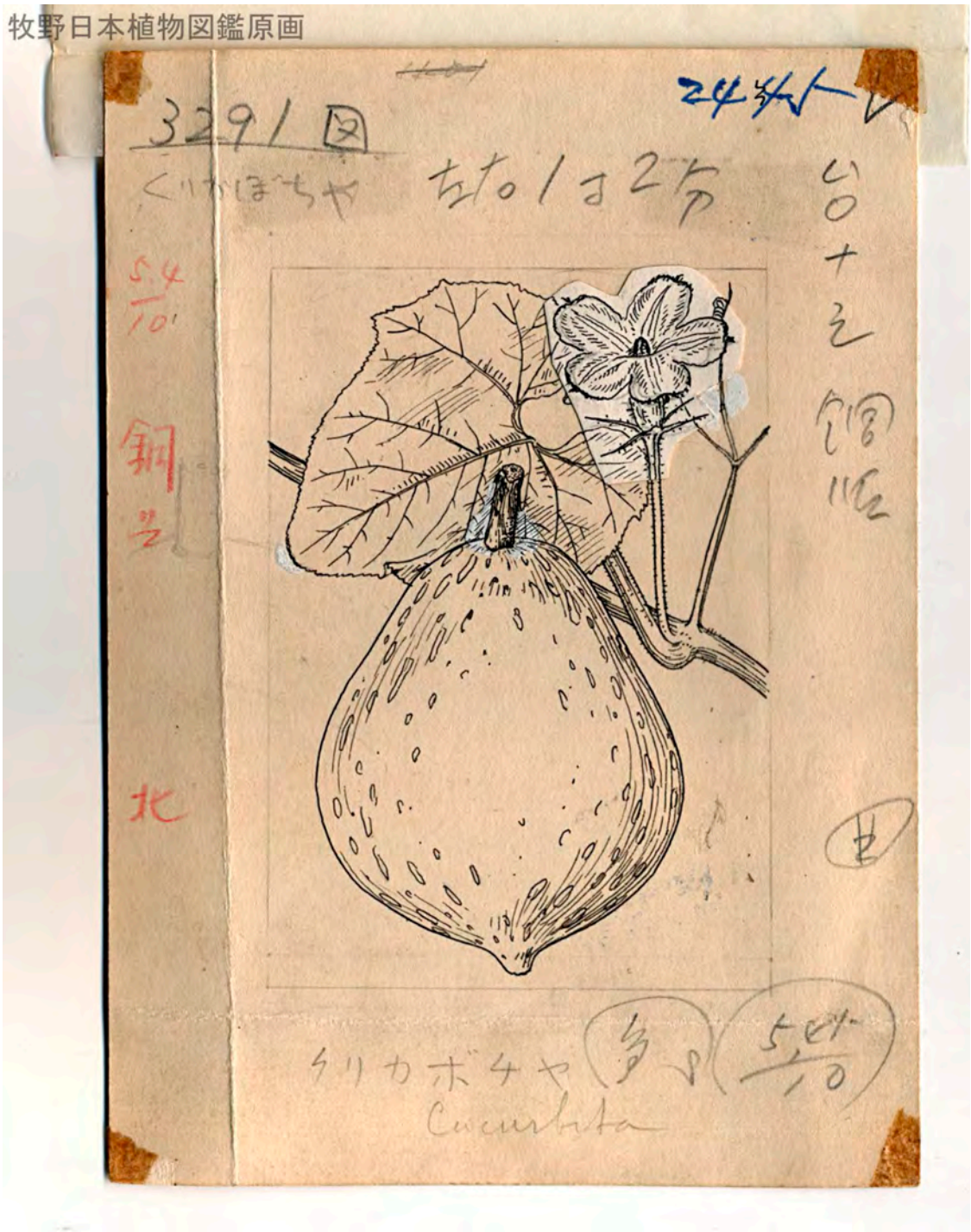

図 2.『増補版 牧野日本植物図鑑』(1955) 第 3291 図「くりかぼちゃ」の原図 (北隆館所蔵).

2. 第 3728 図　はにしき　*Caladium bicolor* Vent.（図 3）
外寸 151 × 107 mm、内寸 97 × 66 mm

南米原産のサトイモ科植物。現在では「カラジウム」あるいは「カラジューム」という名で観葉植物として流通している。図は全体図を中央に配し、左下に花序全体を、右下に仏炎苞を取り除いた花序を示す。小山先生によると思われる鉛筆書きで「カラジューム」、「Caladium」と書かれ、青いペンで「ハニシキ」と記入されている（記入したのは牧野先生か？）。「3728」と「新 3244」はそれぞれ『増補版』と『牧野新日本植物圖鑑』の図版番号、「5.3/10」は印刷時の縮小率と考えられる。

図 3. 『増補版 牧野日本植物図鑑』（1955）第 3728 図「はにしき」の原図（北隆館所蔵）.

図 4.『増補版 牧野日本植物図鑑』(1955) 第 3736 図「びんろうじゅ」の原図 (北隆館所蔵).

3. 第 3736 図　びんろうじゅ　*Areca catechu* L.（図 4）

外寸 151 × 107 mm、内寸 96 × 66 mm

マレーシア原産のヤシ科植物。ビンロウ。未熟な種子（檳榔子：ビンロウジ）と石灰を混ぜ、キンマ *Piper betle* L. の葉で巻いて口に含み、噛み煙草として用いられる。図は全体図を右側に配置し、その左側に花序と果実、さらに花が 2 個描かれている。花には

青鉛筆でバツ印（×）が印されているが、実際には花の図も含めて印刷されている。図の下には小山先生の筆跡と思われる「びんらうじゅ」の名が記されている。「3736」、「3234」はそれぞれ『増補版』と『牧野新日本植物圖鑑』の図版番号、「左右一寸」、「4,55」はそれぞれ印刷時のサイズと縮小率を示している。図の下方に「Fig. 352」とあるが、何の番号か分からない。どこか別の著作に用いられたのだろうか。小山先生がこの図を描いた時代に東京でビンロウが栽培されていたとは考えにくいので、海外の本を参考に描かれたのではないかと考えられる。例えば、Bentley and Trimen (1880) の "Medicinal Plants" に収載されている図版（No. 276）は小山先生の図と構図が似ている。

図 5. 『増補版 牧野日本植物図鑑』（1955）第 3835 図「こめひしば」の原図（北隆館所蔵）.

4. 第 3835 図　こめひしば　*Digitaria chinensis* Hornem.（図 5）
外寸 137 × 99 mm、内寸 97 × 66 mm
各地で雑草化しているイネ科の一年草。匍匐する茎につく 3 本の花序を描き、先端の花序の続きを左の余白に加える。小穂は花茎に重なるように描かれ、少し邪魔をしているようにも見えるが、スペースの関係だったのだろうか？「3835」、「新 2962」はそれぞれ『増補版』と『牧野新日本植物圖鑑』の図版番号。小山先生によると思われる鉛筆書きで「こめひしば」、「Digitaria chinensis Hornem」の名が記されている。左の欄外には牧野先生の筆跡で「ゲラ刷ニテ記載ト対照」とある。
『増補版』の学名には *D. chinensis* が当てられているが、*D. chinensis* はメヒシバの小型のものにあてられたもので、現在ではコメヒシバには *D. radicosa* (Presl) Miq. を当てるのが適当とされる（長田 1985）。

5. 第 3839 図　あきのえのころぐさ　*Setaria autumnalis* Ohwi（図 6）
外寸 137 × 98 mm、内寸 97 × 66 mm
人家の周辺や道路脇などに生えるイネ科の一年草。花茎の先端部、中央部、下部が分割して描かれ、空いた部分に近縁種との区別点となる小穂部が描かれている。花茎中部の葉の下部、花茎上部の葉の下部に修正の跡が見られる。欄外に牧野先生の字で「修正スミ」とあることから、小山先生が描いた当初の図に牧野先生が修正の指示を出し、小山先生が修正をおこなったものと思われる。小山先生によると思われる鉛筆書きで「あきの𢍰のころぐさ」、「Setaria autumnalis Ohwi」と名前が記されている。二重線が引かれた「3839」は『増補版』の、「新 2956」は『牧野新日本植物圖鑑』の図版番号である。
学名には『増補版』では *S. autumnalis* が当てられていたが、『牧野新日本植物圖鑑』では *S. faberi* Hornem. とされている。

以上、小山先生が『増補版 牧野日本植物圖鑑』に提供した図について説明をした。しかし、カヤツリグサ科を専門としてカヤツリグサ科植物の図を多数描いている小山先生が、『牧野日本植物圖鑑』の増補にあたり、カヤツリグサ科植物の図を一枚も提供していないのは不可思議に思われる。この点については、小山先生からは「スゲ属の種をかなり増やされたのですが、*Carex* は相当数（多分増やされた種全部）をサクラを研究して居た、私の友人、川崎哲也さんに依頼され、彼は、よく、スゲを沢山描かされて参った、と言って居ました。」と連絡をいただいている。文中の川崎哲也（1929−2002）は桜の研究で有名であり、『サクラ図譜』（川崎・大場 2010）では川崎が描いた精緻な桜の図を見ることができる。『増補版』にはカヤツリグサ科植物が 86 種（そのうちスゲ属植物は 61 種）掲載されているが、北隆館に残るカヤツリグサ科の原図の中で川崎の署名があるものは 48 枚（スゲ属 37 種 2 変種、イヌノハナヒゲ属 *Rhynchospora* 4 種、シンジュガヤ属 *Scleria* 3 種、ハリイ属 *Eleocharis* 1 種、ホタルイ属 *Scirpus* 1 種）であった（表 1）。川崎がこれらの図の作画をした時期は 1949 年に集中しているので、牧野先生が川崎に作画を依頼したのはこの時期であろうと推定される。したがって、小山先生が牧野先生から依頼を受けたのも 1950 年前後だと考えると、小山先生の回想の通り、先生はまだ高校生で、まだ本格的に研究活動をおこなうより前の時期だったと考えられる。小山先生があと数年早く生まれていれば、『増補版』のカヤツリグサ科の図の多くは小山先生が描かれていたかも知れない。

図 6. 『増補版 牧野日本植物図鑑』(1955) 第 3839 図「あきのえのころぐさ」の原図(北隆館所蔵).

小山先生が描かれた 5 枚の図は、現代語訳された『牧野新日本植物圖鑑』(1961)、新たに種を加え充実させた『改訂増補 牧野新日本植物圖鑑』(1989)、さらに最新の『新図解 牧野日本植物図鑑』(2024) にも収載されており、現在に至るまで広く使われ続けている。

表 1. 『増補版 牧野日本植物圖鑑』(1955) に掲載されたカヤツリグサ科の原図のうち、川崎哲也の署名があるもの一覧 (提供：北隆館).

図版	和名	学名 (『増補版 牧野日本植物圖鑑』1955による)
3737	ひなすげ	*Carex grallatoria* Maxim.
3739	たかねはりすげ	*Carex pauciflora* Lightf.
3740	うすいろすげ	*Carex pallida* C.A.Meyer
3741	きびのみのぼろすげ	*Carex Paxii* Kükenth.
3742	えぞのこうぼうむぎ	*Carex macrocephala* Willd.
3744	からふとすげ	*Carex mackenziei* V.Krecz.
3747	ひめかわずすげ	*Carex brunnescens* Poir.
3750	たてやますげ	*Carex aphyllopus* Kükenth.
3752	やまあぜすげ	*Carex heterolepis* Bunge
3756	あわすげ	*Carex aequialta* Kükenth.
3757	ほろむいすげ	*Carex Middendorffii* Fr.Schm.
3758	きりがみねすげ	*Carex Middendorffii* Fr.Schm. var. *kirigaminensis* Ohwi
3759	しまたぬきらん	*Carex Doenitzii* Boeck. var. *Okuboi* Kükenth.
3761	りしりすげ	*Carex scita* Maxim. var. *riishirensis* Kükenth.
3762	しこたんすげ	*Carex scabrinervia* Franch.
3763	まめすげ	*Carex pudica* Honda
3764	ぬかすげ	*Carex mitrata* Franch.
3765	ちゃしばすげ	*Carex verna* Chaix var. *microtricha* Ohwi
3766	にしのほんもんじすげ	*Carex stenostachys* Fr. et Sav.
3768	つるなしおおいとすげ	*Carex tenuinervis* Ohwi
3769	ごんげんすげ	*Carex sachalinensis* Fr.Schm.
3770	だいせんすげ	*Carex daisenensis* Nakai
3771	たしろすげ	*Carex sociata* Boott
3772	おおしまかんすげ	*Carex oshimensis* Nakai
3774	ひろばすげ	*Carex insaniae* Koidz.
3775	おおひえすげ	*Carex insaniae* Koidz. var. *subdita* Ohwi
3777	けたがねそう	*Carex ciliato-marginata* Nakai
3780	しらかわすげ	*Carex Meyeriana* Kunth
3781	だけすげ	*Carex paupercula* Michx.
3782	ふさなきりすげ	*Carex teiogyna* Boott var. *scabriculmis* Kükenth.
3783	じんぐうすげ	*Carex sacrosancta* Honda
3787	りゅうきゅうすげ	*Carex alliiformis* C.B.Clarke
3788	あわぼすげ	*Carex nipposinica* Ohwi
3789	あきかさすげ	*Carex nemostachys* Steudel
3790	きんきかさすげ	*Carex dispalata* Boott var. *Takeuchii* Ohwi
3792	やまじすげ	*Carex bostrychostigma* Maxim.
3793	みやまじゅずすげ	*Carex dissitiflora* Franch.
3794	ぐれーんすげ	*Carex parciflora* Boott
3797	びろうどすげ	*Carex Miyabei* Franch.
3798	いがくさ	*Rhynchospora rubra* Makino
3799	おおいぬのはなひげ	*Rhynchospora Fauriae* Franch.
3800	とらのはなひげ	*Rhynchospora Brownii* Roem. et Schult.
3801	ひめいぬのはなひげ	*Rhynchospora Faberi* C.B.Clarke
3803	まねきしんじゅがや	*Scleria Onoei* Fr. et Sav.
3804	けしんじゅがや	*Scleria pubigera* Makino
3805	みかわしんじゅがや	*Scleria mikawana* Makino
3808	おおはりい	*Eleocharis attenuata* Palla
3814	しずい	*Scirpus nipponicus* Makino

終わりに

小山先生の訃報に接し、哀悼の意を込めてここに先生の残した仕事の一端を紹介する次第です。先生のご冥福をお祈り申し上げます。本報の執筆に際し、株式会社北隆館様には小山先生作画にかかる原図および川崎哲也氏の作画にかかるデータの提供をいただきました。ここに記して感謝いたします。

参考文献

Bentley, R. and Trimen, H. 1880. Medicinal Plants. Being descriptions with original figures of the principal plants employed in medicine and an account of the characters, properties, and uses of their parts and products of medicinal value. Vol. IV (Nos. 228−306). J. A. Churchill, London.

池田 博・田中純子 2023. もっと知りたい 牧野富太郎 生涯と作品. 東京美術, 東京.

川崎哲也（画）大場秀章（編）2010. サクラ図譜. アボック社, 鎌倉.

高知県立牧野植物園（編）1999. 牧野富太郎 写真集. 高知県立牧野植物園, 高知.

牧野富太郎 1940. 牧野日本植物圖鑑（初版）. 北隆館, 東京.

牧野富太郎 1955a (10 July). 牧野日本植物圖鑑 改訂版（第 23 版）. 北隆館, 東京.

牧野富太郎 1955b (15 Dec.). 増補版 牧野日本植物圖鑑（第 24 版）. 北隆館, 東京.

牧野富太郎 1956a (20 Mar.). 増補版 牧野日本植物圖鑑（第 25 版）. 北隆館, 東京.

牧野富太郎（著）前川文夫・原 寛・津山 尚（分担執筆）1956b (20 Mar.). 牧野日本植物圖鑑 増補. 北隆館, 東京.

牧野富太郎 1960. 増補版 牧野日本植物圖鑑（第 43 版）. 北隆館, 東京.

牧野富太郎（著）前川文夫・原 寛・津山 尚（編）1961. 牧野新日本植物圖鑑. 北隆館, 東京.

牧野富太郎（著）小野幹雄・大場秀章・西田 誠（編）1989. 改訂増補 牧野新日本植物圖鑑. 北隆館, 東京.

牧野富太郎（原著）邑田 仁・米倉浩司（編）2024. 新図解 牧野日本植物図鑑. 北隆館, 東京.

牧野図鑑創刊 80 周年出版編集委員会（編）2020. 牧野植物図鑑原図集 ー牧野図鑑の成立ー. 北隆館, 東京.

大井次三郎 1953. 日本植物誌. 至文堂, 東京.

Ohwi, J.; Meyer, F. G. and Walker, E. H. (eds.) 1965. Flora of Japan (in English). Smithsonian Institute, Washington D.C.

Ohwi, J.; Meyer, F. G. and Walker, E. H. (eds.) 1984. Flora of Japan (in English), reprint version. Smithsonian Institute, Washington D.C.

長田武正 1989. 日本イネ科植物図譜. 平凡社, 東京.